

シャクヤク

植物の概要

- ・植物名 シャクヤク
【学名】*Paeonia lactiflora* Pallas
- ・ボタン科の多年草
- ・草丈 60～80 cm (株分け栽培4年目以降)
- ・花期 5月
- ・栽培品種
 - ①薬用品種「梵天」
 - ②切花用品種で日本薬局方の規格を満たす品種
(規格については、下記「生薬の概要」を参照)



シャクヤク(品種名「梵天」、5月)

薬用部位

根

栽培期間

①薬用品種：4年、②切花用品種：約8年

栽培法

9～10月、株分けして調製した苗を植付け、4年目の秋に収穫する。

調製法

乾燥時期が多湿となる富山県では、自然乾燥のみで良質の生薬を調製することが困難であるため、未乾燥の状態では出荷している。

乾燥機が使用できる場合は、以下の工程を経て、生薬に仕上げる。

- ①掘り取った株から根を外し、水洗いと同時に根の皮をむく。
- ②網棚などに並べ、表面の水分を除き、風通しの良い日陰で自然乾燥する。
- ③概ね乾燥したら、送風乾燥機(30℃)で仕上げ乾燥する。



植付け用の苗

生薬の概要

- ・生薬名 シャクヤク(芍薬)
- ・日本薬局方※の規格 (※厚生労働大臣が薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて定めた医薬品の規格基準書)
原植物：シャクヤク *Paeonia lactiflora* Pallas
成分含量：ペオニフロリン 2.0 % 以上(換算した生薬の乾燥物に対して)
- ・用途 漢方の重要生薬の一つで、婦人薬として利用度が高い。
その他、筋肉のケイレンによる痛み、腹痛、下痢などに用いる。
【処方例】 当帰芍薬散、芍薬甘草湯、葛根湯
- ・国内消費量(日本漢方生薬製剤協会による平成20年度の消費量調査結果より)
約 1,164トン 【産出国の内訳】 中国：約 1,123トン、日本：約 41トン



生育状況(栽培4年目、6月)



生薬「シャクヤク」

シャクヤクの栽培法（概要）

栽培の特徴

- ・株分け栽培で、定植から収穫まで4年を要し、株が大きくなるため、掘取りには機械力が必要
- ・太いゴボウ根は本県の気候では自然乾燥できないため、機械乾燥又は生根で出荷

適地

- ・日当たり良好、排水良好で耕土の深い、肥沃な土地
- ・pH 5.5～6.5、砂壤土～植装土

地ごしらえ 定植

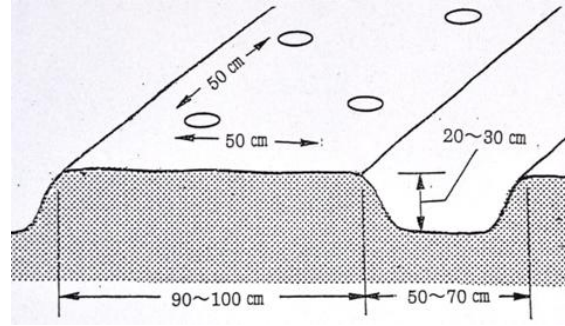
- ・基肥を散布し、深耕（30cm程度）の後、畝をつくる。
- ・マルチをかけ、植付け位置に穴を空け、苗を定植する。

基肥（10aあたり）

乾燥鶏糞 300 kg
（または完熟堆肥 1トン）
苦土石灰 100 kg
過磷酸石灰 60 kg



苗



栽培暦

＜肥料・農薬の分量は10aあたり＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	
生育状況	萌芽 	新葉展開 	開花 	支根形成 	新芽形成 		細根発生 		
除草									
1年目	病害防除（うどんこ病） ダコニール水和剤（1000倍液） 1回につき100～300 L	病害防除（うどんこ病）	摘蕾 根の肥大を促すため蕾を摘み取る ※1年目はほとんど蕾ができない	追肥 化成肥料（NPK各15%） 40 kg 過磷酸石灰 20 kg	茎葉に付着した「うどんこ病」の原因菌が土壌に落ちるのを防ぐため、刈り取って処分する	追肥（乾燥鶏糞 150 kg） チドリ植えの中心のマルチフィルムを破って施す			
2～3年目	病害防除（うどんこ病）	病害防除（うどんこ病）	摘蕾	追肥 化成肥料（NPK各15%） 40 kg 過磷酸石灰 20 kg	茎葉の刈取り・処分	追肥 乾燥鶏糞 300 kg 苦土石灰 100 kg ※3年目には苦土石灰は不要			
4年目	病害防除（うどんこ病）	病害防除（うどんこ病）	摘蕾	追肥 化成肥料（NPK各15%） 40 kg 過磷酸石灰 20 kg 収穫時の地下部は、直径70 cm 深さ30 cm程度	収穫 	掘取りには機械力が必要			

生育の目安

年数	茎数	草丈
1	2～4本	20 cm
2	8本	40 cm
3	20本	50 cm
4	30本	60 cm

生薬への調製法

- ・伝統的な大和芍薬の調製法を紹介する。
- ・この方法は、乾燥時期が多湿となる富山では、乾燥に時間がかかることによって外面が赤色を帯びたり、中心部が黒く仕上がることもある。
- ・この生薬では商品価値が下がるため、県内農家は調製せず、未乾燥の状態でお出ししている。



水洗機

- ③水に浸してから、水洗機に入れる。
- ④水を注入しながら稼働させ、土砂を落とす。
- ⑤川砂と水を入れ、約20分（800回転）
※周皮が取れ、内部が傷つかない程度
- ⑥土砂などを水で洗い流す。
- ⑦網棚などに並べ、表面の水分を除く。
- ⑧風通しの良い日陰で自然乾燥する。
- ⑨概ね乾燥したら、送風乾燥機（30℃）で仕上げ乾燥する。



生薬「シャクヤク」

- ①掘り取った株から根を外す。
- ②乾燥させないように、11月上～中旬まで保存する。